

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のI F記載要領2008に準拠して作成

## 高血圧症・狭心症治療薬(持続性Ca拮抗薬)

## 日本薬局方 アムロジピンベシル酸塩錠

J・P Amlodipine Besilate Tablets

アムロジピン錠 2.5mg「NS」

アムロジピン錠 5mg「NS」

アムロジピン錠 10mg「NS」

## 日本薬局方 アムロジピンベシル酸塩口腔内崩壊錠

J・P Amlodipine Besilate Orally Disintegrating Tablets

アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」

アムロジピンOD錠 5mg「NS」

剤形	錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg : 錠剤(フィルムコーティング錠) OD錠 2.5mg、OD錠 5mg : 錠剤(素錠:口腔内崩壊錠)			
製剤の規制区分	劇薬、処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)			
規格・含量	錠 2.5mg、OD錠 2.5mg : 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 3.47mg (アムロジピンとして 2.5mg) 含有 錠 5mg、OD錠 5mg : 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 6.93mg (アムロジピンとして 5mg) 含有 錠 10mg : 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 13.87mg (アムロジピンとして 10mg) 含有			
一般名	和名:アムロジピンベシル酸塩 洋名:Amlodipine Besilate			
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日		製造販売承認 年月日	薬価基準収載 年月日	発売年月日
	錠 2.5mg、錠 5mg	2008年3月14日	2008年7月4日	2008年7月4日
	錠 10mg	2012年8月15日	2012年12月14日	2012年12月14日
	OD錠 2.5mg、OD錠 5mg	2009年7月13日	2009年11月13日	2009年11月13日
開発・製造販売 (輸入)・提携・ 販売会社名	製造販売元:日新製薬株式会社			
医薬情報担当 者の連絡先				
問い合わせ窓口	日新製薬株式会社 安全管理部 TEL:023-655-2131 FAX:023-655-3419 医療関係者向けホームページ: <a href="http://www.yg-nissin.co.jp/">http://www.yg-nissin.co.jp/</a>			

本I Fは2012年12月改訂(アムロジピン錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg「NS」)及び2013年4月改訂(アムロジピンOD錠 2.5mg、OD錠 5mg「NS」)の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

# I F 利用の手引きの概要

－日本病院薬剤師会－

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びに I F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において I F 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな I F 記載要領が策定された。

## 2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された I F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

### 【I F の様式】

- ①規格は A 4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

### 【I F の作成】

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完すると I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「I F 記載要領 2008」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

### 【I F の発行】

- ①「I F 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「I F 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

### 3. I Fの利用にあたって

「I F記載要領 2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関でのIT環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体のI Fについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I Fの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やI F作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I Fの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I Fが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I Fの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

I Fを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I Fは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I Fがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008年9月)

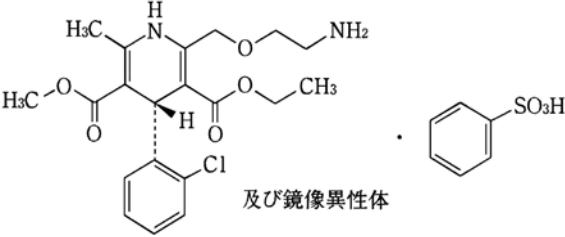
# 目次

<b>I. 概要に関する項目</b>		<b>Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b>	
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	3 7
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	3 7
<b>II. 名称に関する項目</b>		3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	3 7
1. 販売名	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	3 7
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	3 7
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び 処置方法	3 7
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	3 7
5. 化学名（命名法）	2	8. 副作用	3 8
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	9. 高齢者への投与	3 9
7. CAS登録番号	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	3 9
<b>III. 有効成分に関する項目</b>		11. 小児等への投与	3 9
1. 物理化学的性質	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	3 9
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	13. 過量投与	3 9
3. 有効成分の確認試験法	3	14. 適用上の注意	4 0
4. 有効成分の定量法	3	15. その他の注意	4 0
<b>IV. 製剤に関する項目</b>		16. その他	4 0
1. 剤形	4	<b>Ⅸ. 非臨床試験に関する項目</b>	
2. 製剤の組成	5	1. 薬理試験	4 0
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	5	2. 毒性試験	4 0
4. 製剤の各種条件下における安定性	6	<b>X. 管理的事項に関する項目</b>	
5. 調製法及び溶解後の安定性	1 6	1. 規制区分	4 1
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	1 6	2. 有効期間又は使用期限	4 1
7. 溶出性	1 7	3. 貯法・保存条件	4 1
8. 生物学的試験法	2 7	4. 薬剤取扱い上の注意点	4 1
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	2 7	5. 承認条件等	4 1
10. 製剤中の有効成分の定量法	2 7	6. 包装	4 1
11. 力価	2 7	7. 容器の材質	4 1
12. 混入する可能性のある夾雑物	2 7	8. 同一成分・同効薬	4 2
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	2 7	9. 国際誕生年月日	4 2
14. その他	2 7	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	4 2
<b>V. 治療に関する項目</b>		11. 薬価基準収載年月日	4 2
1. 効能又は効果	2 8	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更 追加等の年月日及びその内容	4 3
2. 用法及び用量	2 8	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日 及びその内容	4 3
3. 臨床成績	2 9	14. 再審査期間	4 3
<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b>		15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	4 3
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	3 0	16. 各種コード	4 3
2. 薬理作用	3 0	17. 保険給付上の注意	4 3
<b>VII. 薬物動態に関する項目</b>		<b>XI. 文献</b>	
1. 血中濃度の推移・測定法	3 1	1. 引用文献	4 4
2. 薬物速度論的パラメータ	3 6	2. その他の参考文献	4 4
3. 吸収	3 6	<b>XII. 参考資料</b>	
4. 分布	3 6	1. 主な外国での発売状況	4 4
5. 代謝	3 6	2. 海外における臨床支援情報	4 4
6. 排泄	3 6	<b>XIII. 備考</b>	
7. 透析等による除去率	3 6	その他の関連資料	4 4

## I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯	<p>アムロジピンは持続性Ca拮抗剤である。</p> <p>日新製薬㈱は、アムロジピン錠 2.5mg「NS」、アムロジピン錠 5mg「NS」を後発医薬品として企画・開発し、薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2008 年 3 月に承認を取得し、2008 年 7 月に薬価収載された。</p> <p>また、口腔内崩壊製剤であるアムロジピンOD錠 2.5mg「NS」、アムロジピンOD錠 5mg「NS」を後発医薬品として企画し、2009 年 7 月に承認を取得し、2009 年 11 月に薬価収載された。</p> <p>更にアムロジピン錠 10mg「NS」の承認を 2012 年 8 月に取得し、2012 年 12 月に薬価収載された。</p>
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	<p>アムロジピンはジヒドロピリジン系カルシウム拮抗剤としての作用を示すが、作用の発現が緩徐で持続的であるという特徴を有する。</p> <p>従来のカルシウム拮抗剤は、作用時間が短く、血圧をコントロールするには 1 日 2～3 回の投与を要していたが、1 日 1 回の投与で 24 時間にわたり安定した降圧効果が得られる。</p> <p>アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」、アムロジピンOD錠 5mg「NS」は、唾液のみで服用可能である。</p> <p>重大な副作用として、肝機能障害、黄疸、血小板減少、白血球減少、房室ブロックがあらわれることがある。</p>

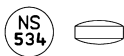


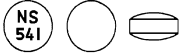

## II. 名称に関する項目

<p>1. 販売名 (1) 和名</p> <p>(2) 洋名</p> <p>(3) 名称の由来</p>	<p>アムロジピン錠 2.5mg 「NS」 アムロジピン錠 5mg 「NS」 アムロジピン錠 10mg 「NS」 アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」 アムロジピンOD錠 5mg 「NS」 Amlodipine Tablets 2.5mg “NS” Amlodipine Tablets 5mg “NS” Amlodipine Tablets 10mg “NS” Amlodipine OD Tablets 2.5mg “NS” Amlodipine OD Tablets 5mg “NS” 本剤の一般名「アムロジピンベシル酸塩」に由来する。</p>
<p>2. 一般名 (1) 和名 (命名法) (2) 洋名 (命名法) (3) ステム</p>	<p>アムロジピンベシル酸塩 (JAN) Amlodipine Besilate (JAN)、Amlodipine (INN) ニフェジピン系カルシウム拮抗剤：-dipine</p>
<p>3. 構造式又は示性式</p>	 <p>及び鏡像異性体</p>
<p>4. 分子式及び分子量</p>	<p>分子式：C<sub>20</sub>H<sub>25</sub>ClN<sub>2</sub>O<sub>5</sub>・C<sub>6</sub>H<sub>6</sub>O<sub>3</sub>S          分子量：567.05</p>
<p>5. 化学名 (命名法)</p>	<p>3-Ethyl 5-methyl (4<i>RS</i>)-2-[(2-aminoethoxy)methyl]-4-(2-chlorophenyl)-6-methyl-1,4-dihydropyridine-3,5-dicarboxylate monobenzenesulfonate (IUPAC)</p>
<p>6. 慣用名、別名、略号、記号番号</p>	<p>別名：ベシル酸アムロジピン</p>
<p>7. CAS登録番号</p>	<p>111470-99-6 (Amlodipine Besilate) 88150-42-9 (Amlodipine)</p>

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

<p>1. 物理化学的性質</p> <p>(1) 外観・性状</p> <p>(2) 溶解性</p> <p>(3) 吸湿性</p> <p>(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点</p> <p>(5) 酸塩基解離定数</p> <p>(6) 分配係数</p> <p>(7) その他の主な示性値</p>	<p>白色～帯黄白色の結晶性の粉末である。</p> <p>メタノールに溶解やすく、エタノール(99.5)にやや溶解にくく、水に溶解にくい。</p> <p>該当資料なし</p> <p>融点：約 198℃(分解)</p> <p>pKa：8.85(アミノ基、滴定法)</p> <p>該当資料なし</p> <p>本品のメタノール溶液(1→100)は旋光性を示さない。</p>
<p>2. 有効成分の各種条件下における安定性</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>3. 有効成分の確認試験法</p>	<p>日本薬局方アムロジピンベシル酸塩の確認試験法による。</p> <p>(1) 紫外可視吸光度測定法による吸収スペクトルの測定</p> <p>(2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)</p> <p>(3) 塩化バリウム試液による沈殿反応</p>
<p>4. 有効成分の定量法</p>	<p>日本薬局方アムロジピンベシル酸塩の定量法による。</p> <p>液体クロマトグラフィー(内標準法)</p>

#### IV. 製剤に関する項目

1. 剤形 (1) 剤形の区別、規格及び性状	品名	アムロジピン錠 2.5mg「NS」	アムロジピン錠 5mg「NS」	アムロジピン錠 10mg「NS」
	区別	錠剤（フィルムコーティング錠）		
	性状	白色のフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
	識別コード	NS534	NS535	NS570
	大きさ	錠径：6.1mm 錠厚：2.9mm 重量：103.5mg	錠径：8.1mm 錠厚：3.4mm 重量：207mg	錠径：8.6mm 錠厚：3.7mm 重量：258mg
	外形			
(2) 製剤の物性 (3) 識別コード	品名	アムロジピンOD錠2.5mg「NS」	アムロジピンOD錠5mg「NS」	
	区別	錠剤（素錠：口腔内崩壊錠）		
	性状	淡黄色の素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	
	識別コード	NS541	NS542	
	大きさ	錠径：6.0mm 錠厚：3.2mm 重量：85mg	錠径：7.0mm 錠厚：3.4mm 重量：120mg	
	外形			
(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等	<p>該当資料なし</p> <p>アムロジピン錠 2.5mg「NS」 : 錠剤本体 表面：NS534</p> <p>アムロジピン錠 5mg「NS」 : 錠剤本体 表面：NS535</p> <p>アムロジピン錠 10mg「NS」 : 錠剤本体 表面：NS570</p> <p>アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」 : 錠剤本体 表面：NS541</p> <p>アムロジピンOD錠 5mg「NS」 : 錠剤本体 表面：NS542、裏面：5</p> <p>該当しない</p>			



<p><b>2. 製剤の組成</b></p> <p>(1) 有効成分(活性成分)の含量</p> <p>(2) 添加物</p> <p>(3) その他</p>	<p><b>アムロジピン錠 2.5mg 「NS」:</b> 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 3.47mg (アムロジピンとして2.5mg) 含有</p> <p><b>アムロジピン錠 5mg 「NS」:</b> 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 6.93mg (アムロジピンとして5mg) 含有</p> <p><b>アムロジピン錠 10mg 「NS」:</b> 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 13.87mg (アムロジピンとして10mg) 含有</p> <p><b>アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」:</b> 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 3.47mg (アムロジピンとして2.5mg) 含有</p> <p><b>アムロジピンOD錠 5mg 「NS」:</b> 1錠中に日本薬局方アムロジピンベシル酸塩 6.93mg (アムロジピンとして5mg) 含有</p> <p><b>アムロジピン錠 2.5mg 「NS」:</b> 結晶セルロース、無水リン酸水素カルシウム、デンプングリコール酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、タルク、カルナウバロウ</p> <p><b>アムロジピン錠 5mg 「NS」:</b> 結晶セルロース、無水リン酸水素カルシウム、デンプングリコール酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、タルク、カルナウバロウ</p> <p><b>アムロジピン錠 10mg 「NS」:</b> 結晶セルロース、無水リン酸水素カルシウム、デンプングリコール酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、タルク、カルナウバロウ</p> <p><b>アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」:</b> D-マンニトール、合成ケイ酸アルミニウム、ヒドロキシプロピルスターチ、結晶セルロース、クロスポビドン、ヒドロキシプロピルセルロース、エデト酸ナトリウム水和物、アスパルテーム (L-フェニルアラニン化合物)、タウマチン、黄色4号 (タートラジン)、1-メントール、ステアリン酸マグネシウム</p> <p><b>アムロジピンOD錠 5mg 「NS」:</b> D-マンニトール、合成ケイ酸アルミニウム、ヒドロキシプロピルスターチ、結晶セルロース、クロスポビドン、ヒドロキシプロピルセルロース、エデト酸ナトリウム水和物、アスパルテーム (L-フェニルアラニン化合物)、タウマチン、黄色4号 (タートラジン)、1-メントール、ステアリン酸マグネシウム</p> <p>該当しない</p>
<p><b>3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意</b></p>	<p>該当しない</p>

4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1) 2)</sup>

【アムロジピン錠 2.5mg 「NS」】

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において 3 年間安定であることが推測された。また、最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存、3 年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、室温保存における 3 年間の安定性が確認された。

加速試験

試験条件：最終包装製品（PTP 包装（PTP 包装し、紙箱に入れたもの）及びバラ包装（ポリエチレン製容器に充てんし、装栓したもの））の状態で、40±1℃、75±5%R. H.

項目及び規格		開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 (白色のフィルムコーティング錠)	PTP	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠
	バラ	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠
確認試験 (1) 沈殿反応	PTP	適合	—	—	適合
	バラ	適合	—	—	適合
確認試験 (2) 紫外可視吸光度測定法	PTP	適合	—	—	適合
	バラ	適合	—	—	適合
含量均一性試験	PTP	適合	適合	適合	適合
	バラ	適合	適合	適合	適合
溶出性 (%) (水、30 分、75%以上)	PTP	95~101	89~96	87~98	83~97
	バラ	95~101	91~99	89~100	91~97
含量 (%) (93.0~107.0)	PTP	99.2	98.4	97.0	95.8
	バラ	99.2	98.6	98.2	96.7

長期保存試験

試験条件：最終包装製品（PTP 包装し、紙箱に入れたもの）の状態で、室温保存

項目及び規格		開始時	1 年後	2 年後	3 年後
性状 (白色のフィルムコーティング錠)		白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠
確認試験	(1) 沈殿反応	適合	—	—	—
	(2) 紫外可視吸光度測定法	適合	—	—	適合
純度試験	ベンゼンスルホン酸及びアムロジピン以外の個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	適合	適合	適合
溶出性 (%) (水、30 分、75%以上)		100~103	93~96	98~102	96~101
含量 (%) (93.0~107.0)		99.5	99.4	99.1	98.8

無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（60℃）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 (白色のフィルムコーティング錠)	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠
含量 (%) (93.0~107.0)	99.2	97.5	97.3
溶出性 (%) (水、30分、75%以上)	95~101	95~97	87~92
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	—	適合
硬度 (N)	130	—	122

湿度（30℃ 75%R. H.）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 (白色のフィルムコーティング錠)	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠
含量 (%) (93.0~107.0)	99.2	98.5	98.4
溶出性 (%) (水、30分、75%以上)	95~101	94~98	87~94
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	—	適合
硬度 (N)	130	—	85

光（1000lx）

項目及び規格	開始時	25 日 60 万 lx・hr	50 日 120 万 lx・hr
性状 (白色のフィルムコーティング錠)	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠	白色のフィルムコーティング錠
含量 (%) (93.0~107.0)	99.3	97.4	96.9
溶出性 (%) (水、30分、75%以上)	98~102	92~96	93~97
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	適合	適合
硬度 (N)	93	—	75

**【アムロジピン錠 5mg 「NS」】**

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において 3 年間安定であることが推測された。また、最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存、3 年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、室温保存における 3 年間の安定性が確認された。

**加速試験**

試験条件：最終包装製品（PTP 包装（PTP 包装し、紙箱に入れたもの）及びバラ包装（ポリエチレン製容器に充てんし、装栓したもの））の状態、40±1℃、75±5%R. H.

項目及び規格		開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	PTP	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
	バラ	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
確認試験 (1) 沈殿反応	PTP	適合	—	—	適合
	バラ	適合	—	—	適合
(2) 紫外可視吸光度測定法	PTP	適合	—	—	適合
	バラ	適合	—	—	適合
含量均一性試験	PTP	適合	適合	適合	適合
	バラ	適合	適合	適合	適合
溶出性 (%) (水、45 分、70%以上)	PTP	92~99	89~97	82~94	81~94
	バラ	92~99	86~96	81~94	76~93
含量 (%) (93.0~107.0)	PTP	100.7	99.4	97.8	96.9
	バラ	100.7	100.2	98.6	96.5

**長期保存試験**

試験条件：最終包装製品（PTP 包装し、紙箱に入れたもの）の状態、室温保存

項目及び規格		開始時	1 年後	2 年後	3 年後
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)		白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
確認試験	(1) 沈殿反応	適合	—	—	—
	(2) 紫外可視吸光度測定法	適合	—	—	適合
純度試験	ベンゼンスルホン酸及びアムロジピン以外の個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	適合	適合	適合
溶出性 (%) (水、45 分、70%以上)		90~104	92~96	100~102	94~101
含量 (%) (93.0~107.0)		99.2	99.9	99.3	99.4

無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（60℃）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
含量(%) (93.0~107.0)	100.5	98.2	97.8
溶出性(%) (水、45分、70%以上)	92~98	86~92	76~89
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	—	適合
硬度(N)	200以上	—	200以上

湿度（30℃ 75%R. H.）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
含量(%) (93.0~107.0)	100.5	99.1	98.3
溶出性(%) (水、45分、70%以上)	92~98	91~96	80~92
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	—	適合
硬度(N)	200以上	—	163

光（1000lx）

項目及び規格	開始時	25日 60万 lx・hr	50日 120万 lx・hr
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
含量(%) (93.0~107.0)	99.0	98.1	97.6
溶出性(%) (水、45分、70%以上)	97~100	91~95	90~92
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	適合	適合
硬度(N)	93	—	74

分割後の安定性試験（参考情報）

光（1000lx）

項目及び規格	開始時	1 ヶ月 約 72 万 lx・hr	2 ヶ月 約 144 万 lx・hr
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色のフィルムコーティング錠	分割面が微黄色に着色	分割面が微黄色に着色
含量(%) (93.0~107.0)	99.0	96.6	94.5
純度試験 ベンゼンスルホン酸及び アムロジピン以外の 個々：0.4%以下 総和：1.6%以下	適合	適合	不適合

**【アムロジピン錠 10mg 「NS」】**

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において 3 年間安定であることが推測された。

**加速試験**

試験条件：最終包装製品（PTP 包装（PTP 包装し、ポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）及びバラ包装（直接ポリエチレン製容器に充てんし、装栓し、紙箱に入れたもの））の状態で、40±1℃、75±5%R.H.

項目及び規格		開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	PTP	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
	バラ	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
確認試験 紫外可視吸光度測定法	PTP	適合	適合	適合	適合
	バラ	適合	適合	適合	適合
含量均一性試験	PTP	適合	適合	適合	適合
	バラ	適合	適合	適合	適合
溶出性 (%) (水、45 分、70%以上)	PTP	96~102	95~102	88~97	89~100
	バラ	96~102	94~100	92~98	93~97
含量 (%) (95.0~105.0)	PTP	99.9	100.0	100.3	99.7
	バラ	99.9	100.1	99.6	99.7

無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（60℃、遮光）

項目及び規格	開始時	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
含量 (%) (95.0~105.0)	99.7	98.2	95.6	95.8
溶出性 (%) (水、45分、70%以上)	96~101	86~89	85~89	75~87
硬度 (N)	119	139	143	133

湿度（30℃ 75%R. H. 遮光）

項目及び規格	開始時	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
含量 (%) (95.0~105.0)	99.7	99.6	98.8	98.5
溶出性 (%) (水、45分、70%以上)	96~101	89~93	93~95	88~92
硬度 (N)	119	91	89	79

光（1000lx）

項目及び規格	開始時	25日 60万 lx・hr	50日 120万 lx・hr
性状 (白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠)	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠	白色の片面割線入りのフィルムコーティング錠
含量 (%) (95.0~105.0)	99.7	99.1	98.0
溶出性 (%) (水、45分、70%以上)	96~101	92~94	92~95
硬度 (N)	119	147	125

**【アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」】**

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。また、最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存、3年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、室温保存における3年間の安定性が確認された。

**加速試験**

試験条件：最終包装製品（PTP包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態、40±1℃、75±5%R. H.

項目及び規格		開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 (淡黄色の素錠)		淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠
確認試験	(1) 沈殿反応	適合	—	—	適合
	(2) 紫外可視吸光度測定法	適合	—	—	適合
純度試験	類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	—	—	—	適合
	含量均一性試験	適合	適合	適合	適合
崩壊性（秒） （水、2分以内）		19～30	19～26	15～45	17～44
溶出性（%） （水、15分、75%以上）		—	—	—	81～97
含量（%） （95.0～105.0）		100.8	100.1	100.7	100.6

**長期保存試験**

試験条件：最終包装製品（PTP包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態、室温保存

項目及び規格		開始時	12 ヶ月後	24 ヶ月後	36 ヶ月後
性状 (淡黄色の素錠)		淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠
確認試験	(1) 沈殿反応	適合	適合	適合	適合
	(2) 紫外可視吸光度測定法	適合	適合	適合	適合
純度試験	類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	—	—	適合	適合
	含量均一性試験	適合	適合	適合	適合
崩壊性（秒） （水、2分以内）		19～30	18～29	16～34	22～30
溶出性（%） （水、15分、75%以上）		—	—	88～97	82～96
含量（%） （95.0～105.0）		100.8	100.4	100.2	100.0



無包装状態における安定性試験（参考情報）

温度（50℃、密栓）

項目及び規格	開始時	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
性状 (淡黄色の素錠)	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠
含量(%) (95.0~105.0)	101.5	101.4	100.8	101.2
溶出性(%) (水、15分、75%以上)	91~98	90~92	92~94	91~95
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	適合	適合
崩壊性(秒) (水、2分以内)	20~27	18~20	14~20	20~25
硬度(N)	26	20	22	23

湿度（30℃ 75%R. H.）

項目及び規格	開始時	0.5ヵ月	1ヵ月
性状 (淡黄色の素錠)	淡黄色の素錠	膨張、肌荒れ (規格外)	膨張、肌荒れ (規格外)
含量(%) (95.0~105.0)	98.6	99.7	99.4
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	適合
水分(%)	3.6	7.5	6.0
硬度(N)	36	10以下	10以下

光（1000lx）

項目及び規格	開始時	25日 60万lx・hr	50日 120万lx・hr
性状 (淡黄色の素錠)	淡黄色の素錠	照射面黄色わずかに濃くなった (規格内の変化)	照射面黄色わずかに濃くなった (規格内の変化)
含量(%) (95.0~105.0)	101.5	98.6	97.1
溶出性(%) (水、15分、75%以上)	91~98	90~92	90~93
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	不適合	不適合
崩壊性(秒) (水、2分以内)	20~27	7~9	8~12
硬度(N)	26	11	12

室内散乱光下

項目及び規格	開始時	0.5ヵ月	1ヵ月
性状 (淡黄色の素錠)	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠
含量(%) (95.0~105.0)	98.6	99.2	99.2
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	適合
水分(%)	3.6	5.0	5.0
硬度(N)	36	26	22

二次包装（ピロー包装）開封後の安定性試験（参考情報）

室内散乱光下

項目及び規格	開始時	3 ヶ月
性状 (淡黄色の素錠)	淡黄色の素錠	淡黄色の素錠
含量(%) (95.0~105.0)	101.5	100.9
溶出性(%) (水、15分、75%以上)	91~98	90~93
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合
崩壊性(秒) (水、2分以内)	20~27	19~23
硬度(N)	26	26

【アムロジピンOD錠 5mg 「NS」】

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヶ月）の結果、室温保存において3年間安定であることが推測された。また、最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存、3年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、室温保存における3年間の安定性が確認された。

加速試験

試験条件：最終包装製品（PTP包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態で、40±1℃、75±5%R.H.

項目及び規格	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠
確認試験 (1) 沈殿反応	適合	—	—	適合
(2) 紫外可視吸光度測定法	適合	—	—	適合
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	—	—	—	適合
含量均一性試験	適合	適合	適合	適合
崩壊性(秒) (水、2分以内)	22~35	19~33	15~30	15~31
溶出性(%) (水、15分、75%以上)	—	—	—	85~95
含量(%) (95.0~105.0)	101.9	101.3	102.0	101.3

**長期保存試験**

試験条件：最終包装製品（PTP包装し、乾燥剤と共にポリエチレンラミネートアルミニウムフィルムでピロー包装し、紙箱に入れたもの）の状態、室温保存

項目及び規格	開始時	12ヵ月後	24ヵ月後	36ヵ月後
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠
確認試験 (1) 沈殿反応	適合	適合	適合	適合
(2) 紫外可視吸光度測定法	適合	適合	適合	適合
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	—	—	適合	適合
含量均一性試験	適合	適合	適合	適合
崩壊性(秒) (水、2分以内)	22~35	20~33	12~22	19~30
溶出性(%) (水、15分、75%以上)	—	—	85~96	91~97
含量(%) (95.0~105.0)	101.9	101.5	101.1	101.3

**無包装状態における安定性試験（参考情報）**

**温度（50℃、密栓）**

項目及び規格	開始時	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠
含量(%) (95.0~105.0)	101.1	100.6	100.5	100.9
溶出性(%) (水、15分、75%以上)	80~91	83~89	91~94	90~93
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	適合	適合
崩壊性(秒) (水、2分以内)	23~35	20~24	15~25	21~33
硬度(N)	27	25	24	24

**湿度（30℃ 75%R.H.）**

項目及び規格	開始時	0.5ヵ月	1ヵ月
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	膨張、肌荒れ (規格外)	膨張、肌荒れ (規格外)
含量(%) (95.0~105.0)	100.4	99.6	99.8
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	適合
水分(%)	3.4	6.3	7.4
硬度(N)	40	19	10以下

光 (1000lx)

項目及び規格	開始時	25日 60万 lx・hr	50日 120万 lx・hr
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	照射面黄色わずかに濃くなった (規格内の変化)	照射面黄色わずかに濃くなった (規格内の変化)
含量 (%) (95.0~105.0)	101.1	98.8	97.0
溶出性 (%) (水、15分、75%以上)	80~91	84~93	85~90
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	不適合
崩壊性 (秒) (水、2分以内)	23~35	10~14	9~13
硬度 (N)	27	10 以下	13

室内散乱光下

項目及び規格	開始時	0.5ヵ月	1ヵ月
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠
含量 (%) (95.0~105.0)	100.4	100.8	99.2
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合	適合
水分 (%)	3.4	4.3	5.0
硬度 (N)	40	32	24

二次包装 (ピロー包装) 開封後の安定性試験 (参考情報)

室内散乱光下

項目及び規格	開始時	3ヵ月
性状 (淡黄色の片面割線入りの素錠)	淡黄色の片面割線入りの素錠	淡黄色の片面割線入りの素錠
含量 (%) (95.0~105.0)	101.1	101.0
溶出性 (%) (水、15分、75%以上)	80~91	86~93
純度試験 類縁物質 個々：0.2%以下 総和：1.0%以下	適合	適合
崩壊性 (秒) (水、2分以内)	23~35	23~26
硬度 (N)	27	29

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)

該当しない

## 7. 溶出性<sup>3)</sup>

### アムロジピン錠 2.5mg「NS」の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬審第487号（一部改正：平成13年5月31日付医薬審発第786号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方崩壊試験第1液

pH5.0 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方崩壊試験第2液

水 日本薬局方精製水

回転数：50回転（pH1.2、pH5.0、pH6.8、水）、100回転（pH6.8）

試験時間：

pH1.2 では2時間、その他の試験液では6時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で終了とすることができる。

判定基準：

ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って同等性を判定した。

#### 【pH1.2】

標準製剤が15～30分に平均85%以上溶出する場合

標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

#### 【pH5.0、pH6.8、水】

標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間以内に85%に達する場合で、

標準製剤が30分以内に平均85%以上溶出しない場合

標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

#### 【pH6.8(100回転)】

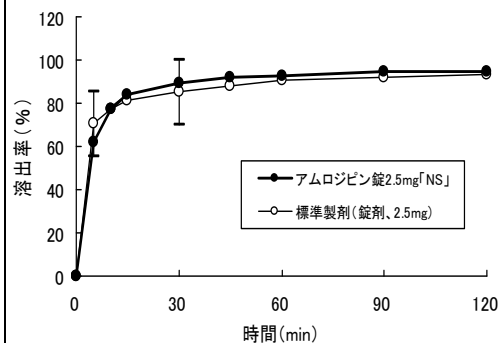
標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合

試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

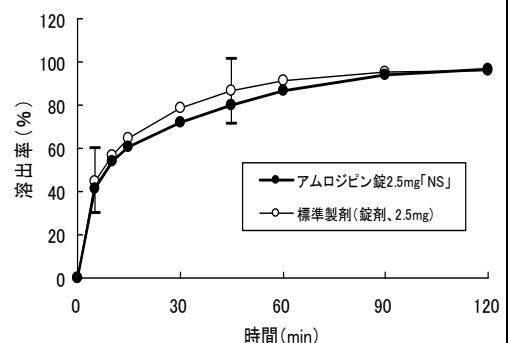
結果：

いずれの場合においても溶出挙動が同等と判定された。

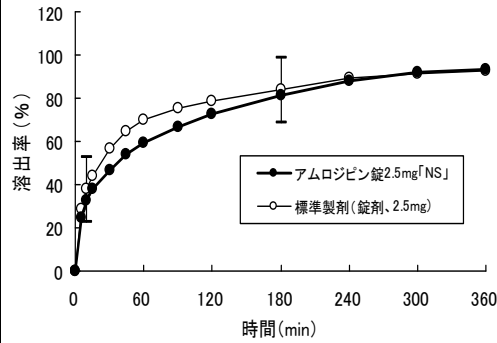
pH1.2 50回転



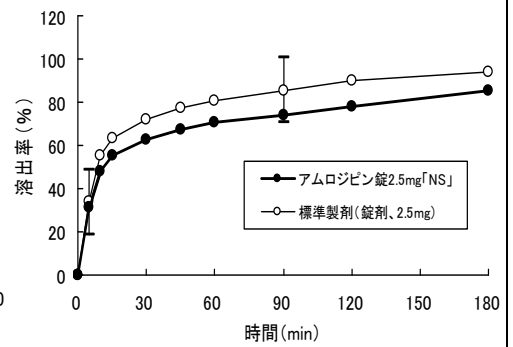
pH5.0 50回転



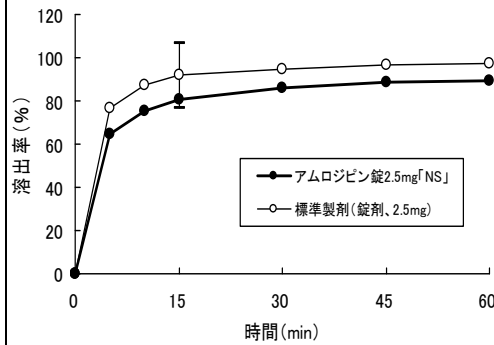
pH6.8 50回転



水 50回転



pH6.8 100回転



表：溶出挙動における同等性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、2.5mg)	アムロジピン錠 2.5mg「NS」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50回転	pH1.2	5分	70.4	62.2	適合
		30分	85.1	89.2	
	pH5.0	5分	44.7	41.3	適合
		45分	86.6	80.3	
	pH6.8	10分	37.7	32.9	適合
		180分	83.9	81.1	
水	5分	33.8	31.6	適合	
	90分	85.6	74.1		
100回転	pH6.8	15分	91.7	80.9	適合

(n=12)

アムロジピン錠 2.5mg「NS」は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたアムロジピンベシル酸塩 2.5mg 錠 b の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験液	回転数	規定時間	溶出規格
水	75回転	30分	75%以上

### アムロジピン錠 5mg「NS」の溶出挙動における類似性

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬審第487号（一部改正：平成13年5月31日付医薬審発第786号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液 pH1.2 日本薬局方崩壊試験第1液

pH5.0 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方崩壊試験第2液

水 日本薬局方精製水

回転数：50回転（pH1.2、pH5.0、pH6.8、水）、100回転（pH6.8）

試験時間：

pH1.2 では2時間、その他の試験液では6時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で終了とすることができる。

判定基準：

ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って同等性を判定した。

#### 【pH1.2、pH5.0、pH6.8、水】

標準製剤の平均溶出率が規定された試験時間以内に85%に達する場合で、

標準製剤が30分以内に平均85%以上溶出しない場合

標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

#### 【pH6.8(100回転)】

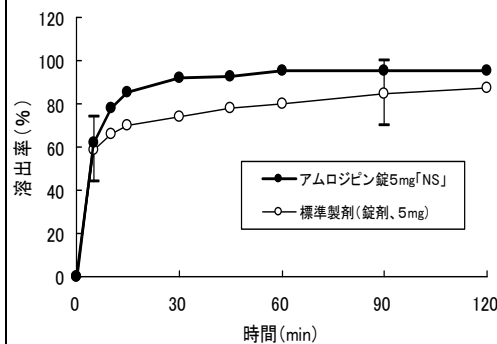
標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合

試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

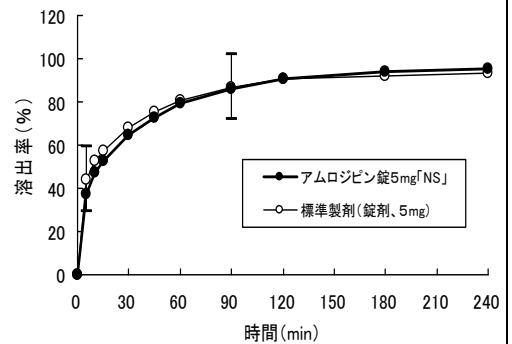
結果：

いずれの場合においても溶出挙動が同等と判定された。

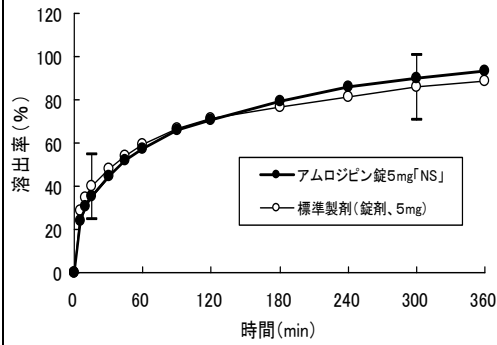
pH1.2 50回転



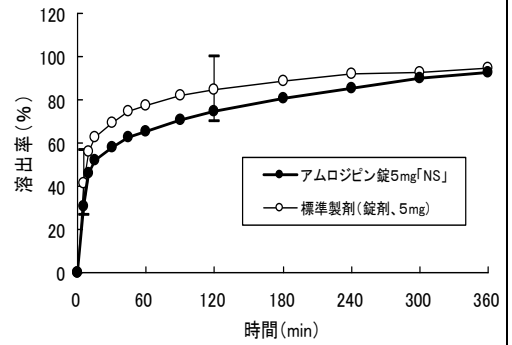
pH5.0 50回転



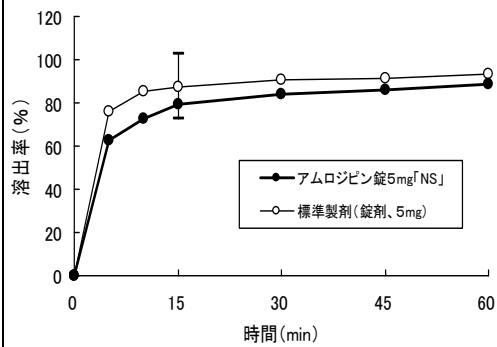
pH6.8 50回転



水 50回転



pH6.8 100回転



表：溶出挙動における同等性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、5mg)	アムロジピン錠 5mg「NS」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50 回転	pH1.2	5 分	58.9	62.2	適合
		90 分	84.8	95.3	
	pH5.0	5 分	44.2	37.1	適合
		90 分	86.9	86.1	
	pH6.8	15 分	39.8	35.5	適合
		300 分	85.8	90.3	
水	5 分	41.5	30.7	適合	
	120 分	85.0	74.5		
100 回転	pH6.8	15 分	87.4	79.2	適合

(n=12)

アムロジピン錠 5mg「NS」は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたアムロジピンベシル酸塩 5mg 錠 b の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験液	回転数	規定時間	溶出規格
水	75 回転	45 分	70%以上



**アムロジピン錠 10mg「NS」の溶出挙動における類似性**

含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 12 年 2 月 14 日付医薬審第 64 号（一部改正：平成 13 年 5 月 31 日付医薬審発第 786 号、平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第 1 液

pH5.0 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第 2 液

水 日本薬局方精製水

回転数：50 回転（pH1.2、pH5.0、pH6.8、水）、100 回転（pH6.8）

標準製剤：アムロジピン錠 5mg「NS」

試験時間：

pH1.2 では 2 時間、その他の試験液では 6 時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が 85% を越えた時点で終了とすることができる。

判定基準：

ガイドラインの判定基準のうち、次の項目に従って同等性を判定した。

**【pH1.2、pH6.8(100 回転)】**

標準製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出する場合

試験製剤が 15 分以内に平均 85% 以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10% の範囲にある。

**【pH5.0、pH6.8、水】**

標準製剤が 30 分以内に平均 85% 以上溶出しない場合

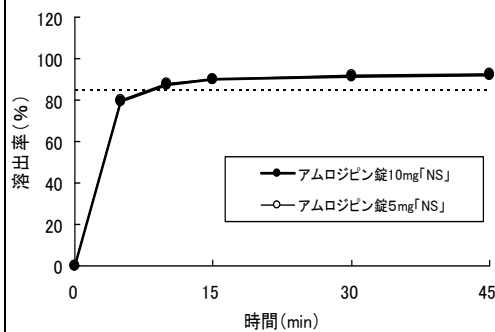
規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が 85% 以上となるとき、標準製剤の平均溶出率が 40% 及び 85% 付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10% の範囲にあるか、又は f2 関数の値は 50 以上である。

最終比較時点における試験製剤の個々の溶出率について、標準製剤の平均溶出率が 85% に達するとき、試験製剤の平均溶出率±15% の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25% の範囲を超えるものがない。

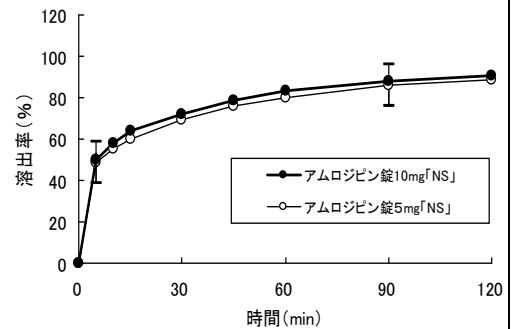
結果：

ガイドラインの基準を全て満たし溶出挙動が同等と判断されたため、両製剤は生物学的に同等とみなされた。

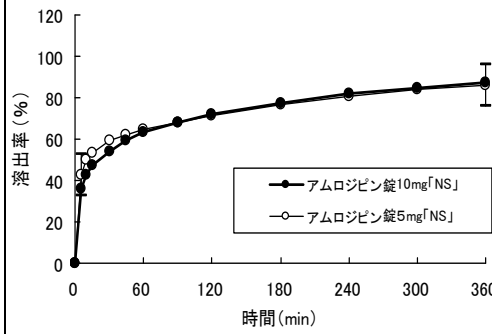
**pH1.2 50 回転**



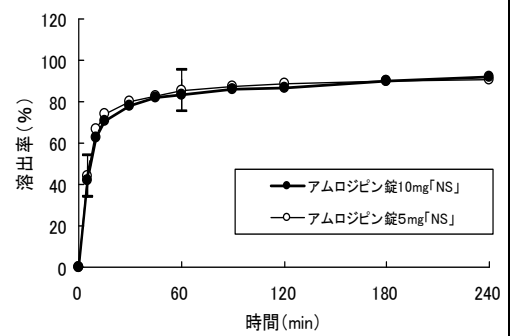
**pH5.0 50 回転**



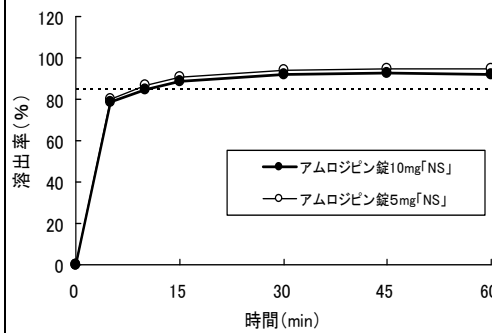
pH6.8 50回転



水 50回転



pH6.8 100回転



表：溶出挙動における同等性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、5mg)	アムロジピン錠 10mg「NS」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50回転	pH1.2	15分	90.3	89.7	適合
		5分	48.5	50.1	適合
	pH5.0	90分	86.0	88.2	適合
		5分	43.0	36.3	適合
	pH6.8	360分	86.0	87.5	適合
		5分	43.7	42.1	適合
水	60分	85.6	83.4	適合	
	100回転	pH6.8	15分	90.5	88.4

(n=12)

表：溶出挙動における同等性（試験製剤の個々の溶出率）

試験条件		最終比較 時点	アムロジピン錠 10mg「NS」		判定基準	判定
回転数	試験液		平均 溶出率%	個々の 溶出率%		
50回転	pH1.2	15分	89.7	86.6~94.0	試験製剤の最終比較時点の 平均溶出率±15%の範囲を 超えるものが12個中1個以 下で、±25%の範囲を超える ものがない。	適合
	pH5.0	90分	88.2	82.5~91.2		適合
	pH6.8	360分	87.5	81.9~92.2		適合
	水	60分	83.4	71.8~89.1		適合
100回転	pH6.8	15分	88.4	85.2~91.3	適合	

(n=12)

**アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」の溶出挙動における類似性**

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬審第487号（一部改正：平成13年5月31日付医薬審発第786号、平成18年11月24日付薬食審査発第1124004号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第1液

pH5.0 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第2液

水 日本薬局方精製水

回転数：50回転（pH1.2、pH5.0、pH6.8、水）、100回転（pH6.8）

試験時間：

pH1.2 では2時間、その他の試験液では6時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で終了とすることができる。

判定基準：

ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って類似性を判定した。

**【pH1.2、pH5.0、pH6.8、pH6.8(100回転)】**

標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合

試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

**【水】**

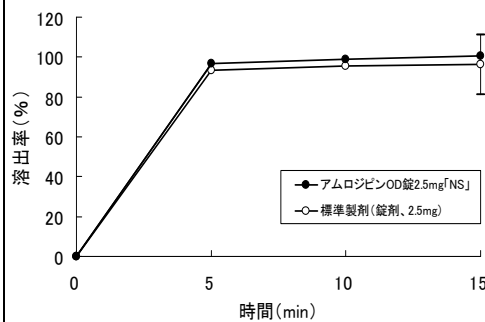
標準製剤が30分以内に平均85%以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が85%以上となるとき、標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値は42以上である。

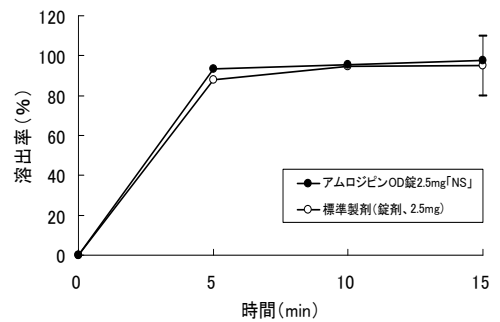
結果：

いずれの場合においても溶出挙動が類似していると判定された。

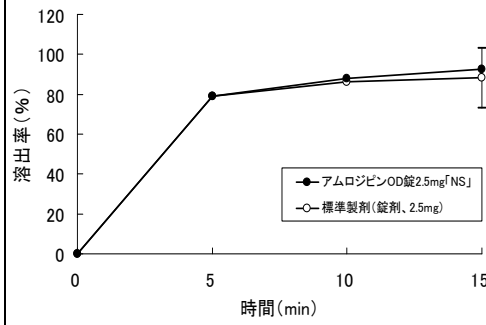
**pH1.2 50回転**



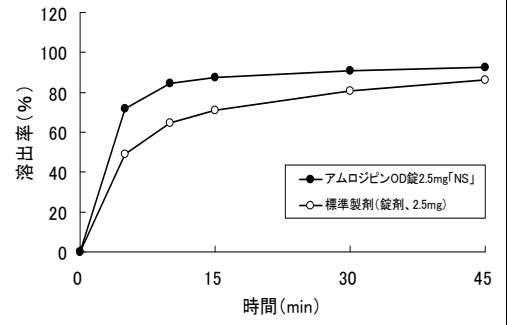
**pH5.0 50回転**



pH6.8 50回転

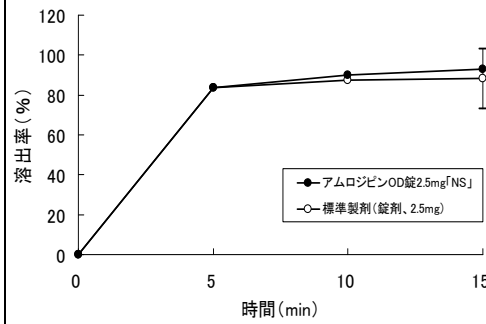


水 50回転



f2 関数の値  $\geq 42$  : 適合

pH6.8 100回転



表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、2.5mg)	アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50 回転	pH1.2	15 分	96.2	100.5	適合
	pH5.0	15 分	95.0	97.5	適合
	pH6.8	15 分	88.2	92.5	適合
	水	45 分	86.2	f2 関数 44.3	適合
100 回転	pH6.8	15 分	88.2	92.9	適合

(n=12)

**アムロジピンOD錠 5mg「NS」の溶出挙動における類似性**

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬審第487号（一部改正：平成13年5月31日付医薬審発第786号、平成18年11月24日付薬食審査発第1124004号）

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方溶出試験第1液

pH5.0 薄めた McIlvaine の緩衝液

pH6.8 日本薬局方溶出試験第2液

水 日本薬局方精製水

回転数：50回転（pH1.2、pH5.0、pH6.8、水）、100回転（pH6.8）

試験時間：

pH1.2 では2時間、その他の試験液では6時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で終了とすることができる。

判定基準：

ガイドラインの判定基準のうち、次の該当する項目に従って類似性を判定した。

**【pH1.2、pH5.0】**

標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合

試験製剤が15分以内に平均85%以上溶出するか、又は15分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

**【pH6.8、pH6.8(100回転)】**

標準製剤が15～30分に平均85%以上溶出する場合

標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値が42以上である。

**【水】**

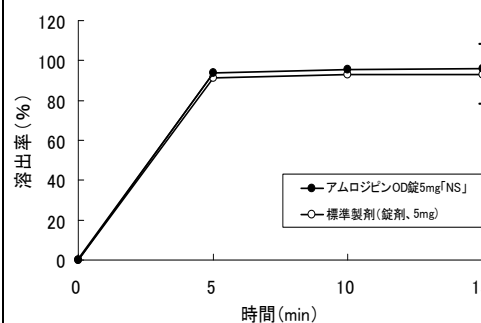
標準製剤が30分以内に平均85%以上溶出しない場合

規定された試験時間において標準製剤の平均溶出率が85%以上となる時、標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値は42以上である。

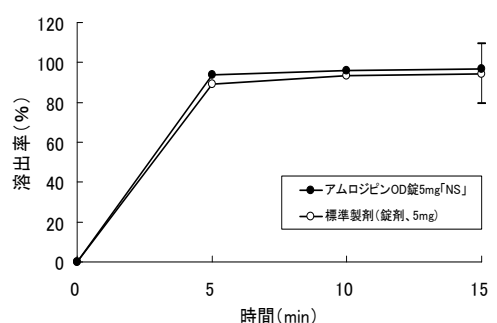
結果：

いずれの場合においても溶出挙動が類似していると判定された。

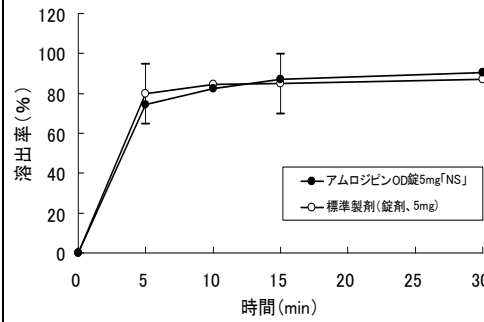
**pH1.2 50回転**



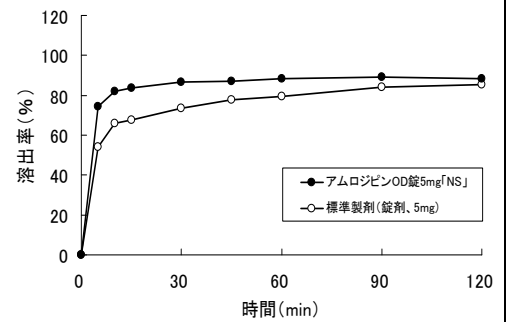
**pH5.0 50回転**



pH6.8 50回転

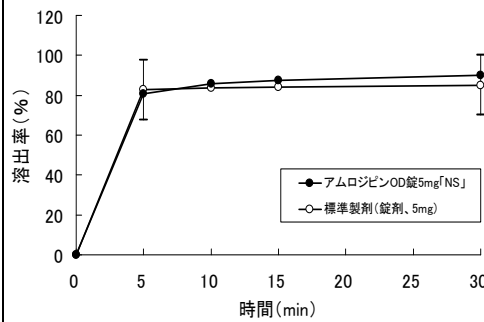


水 50回転



f2 関数の値  $\geq 42$  : 適合

pH6.8 100回転



表：溶出挙動における類似性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）

試験条件			標準製剤 (錠剤、5mg)	アムロジピンOD錠 5mg「NS」	判定
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
50 回転	pH1.2	15 分	93.1	96.1	適合
	pH5.0	15 分	94.4	96.6	適合
	pH6.8	5 分	79.8	74.5	適合
		15 分	84.8	87.0	
	水	120 分	85.4	f2 関数 53.9	適合
100 回転	pH6.8	5 分	82.7	80.8	適合
		30 分	85.1	89.9	

(n=12)

8. 生物学的試験法	該当しない
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	<p><b>【錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg】</b>  日本薬局方アムロジピンベシル酸塩錠の確認試験法による。  紫外可視吸光度測定法による吸収スペクトルの測定</p> <p><b>【OD錠 2.5mg、OD錠 5mg】</b>  日本薬局方アムロジピンベシル酸塩口腔内崩壊錠の確認試験法による。  紫外可視吸光度測定法による吸収スペクトルの測定</p>
10. 製剤中の有効成分の定量法	<p><b>【錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg】</b>  日本薬局方アムロジピンベシル酸塩錠の定量法による。  液体クロマトグラフィー（内標準法）</p> <p><b>【OD錠 2.5mg、OD錠 5mg】</b>  日本薬局方アムロジピンベシル酸塩口腔内崩壊錠の定量法による。  液体クロマトグラフィー</p>
11. 力価	本剤は力価表示に該当しない
12. 混入する可能性のある夾雑物	該当資料なし
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	該当しない
14. その他	該当しない

## V. 治療に関する項目

<p>1. 効能又は効果</p>	<p>高血圧症、狭心症</p> <p>〈効能・効果に関連する使用上の注意〉          本剤は効果発現が緩徐であるため、緊急な治療を要する不安定狭心症には効果が期待できない。</p>
<p>2. 用法及び用量</p>	<p>成人への投与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧症              通常、成人にはアムロジピンとして2.5～5mgを1日1回経口投与する。              なお、症状に応じ適宜増減するが、効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。</li> <li>・狭心症              通常、成人にはアムロジピンとして5mgを1日1回経口投与する。              なお、症状に応じ適宜増減する。</li> </ul> <p>小児への投与【アムロジピン錠10mg「NS」を除く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧症              通常、6歳以上の小児には、アムロジピンとして2.5mgを1日1回経口投与する。              なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</li> </ul> <p>アムロジピン錠2.5mg、錠5mg「NS」</p> <p>〈用法・用量に関連する使用上の注意〉          6歳以上の小児への投与に際しては、1日5mgを超えないこと。</p> <p>アムロジピンOD錠2.5mg、OD錠5mg「NS」</p> <p>〈用法・用量に関連する使用上の注意〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 6歳以上の小児への投与に際しては、1日5mgを超えないこと。</li> <li>2. 本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜から吸収されることはないため、唾液又は水で飲み込むこと（「適用上の注意」の項参照）。</li> </ol>



<p>3. 臨床成績</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 臨床データパッケージ (2009年4月以降承認品目)</li><li>(2) 臨床効果</li><li>(3) 臨床薬理試験：忍容性試験</li><li>(4) 探索的試験：用量反応探索試験</li><li>(5) 検証的試験<ul style="list-style-type: none"><li>1) 無作為化並行用量反応試験</li><li>2) 比較試験</li><li>3) 安全性試験</li><li>4) 患者・病態別試験</li></ul></li><li>(6) 治療的使用<ul style="list-style-type: none"><li>1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）</li><li>2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要</li></ul></li></ul>	<p>該当資料なし</p>
--	---------------

## VI. 薬効薬理に関する項目

<p>1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群</p>	<p>ジルチアゼム塩酸塩、ニカルジピン塩酸塩、ニソルジピン、ニトレンジピン、ニフェジピン、ニルバジピン、バルニジピン塩酸塩、ベニジピン塩酸塩、マニジピン塩酸塩、その他カルシウム拮抗剤</p>
<p>2. 薬理作用</p> <p>(1) 作用部位・作用機序<sup>4)</sup></p> <p>(2) 薬効を裏付ける試験成績</p> <p>(3) 作用発現時間・持続時間</p>	<p>アムロジピンベシル酸塩はジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬としての作用を示すが、作用の発現が緩徐で持続的であるという特徴を有する。ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬は膜電位依存性L型カルシウムチャンネルに特異的に結合し、細胞内へのカルシウムの流入を減少させることにより、冠血管や末梢血管の平滑筋を弛緩させる。非ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬（ベラパミルやジルチアゼム）と比較すると、血管選択性が高く、心収縮力や心拍数に対する抑制作用は弱い。</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度
- (2) 最高血中濃度到達時間
- (3) 臨床試験で確認された血中濃度<sup>3)</sup>

該当資料なし

「VII. 薬物動態に関する項目 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」を参照

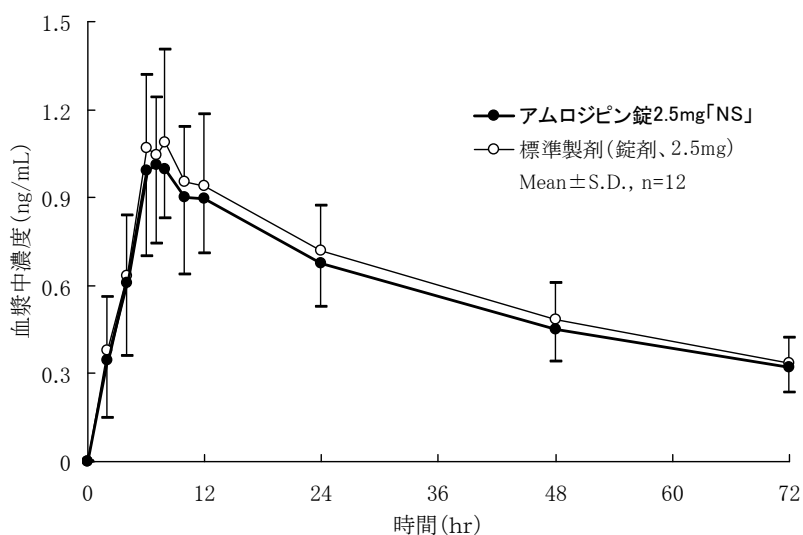
#### 【アムロジピン錠 2.5mg 「NS」、アムロジピン錠 5mg 「NS」】

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬審第487号（一部改正：平成13年5月31日付医薬審第786号）

アムロジピン錠 2.5mg 「NS」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（アムロジピンとして2.5mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アムロジピン錠 2.5mg 「NS」	40.73±9.32	1.09±0.27	6.8±1.2	44.7±5.9
標準製剤 (錠剤、2.5mg)	43.33±9.50	1.16±0.29	7.3±1.1	44.2±14.0

(Mean±S.D., n=12)

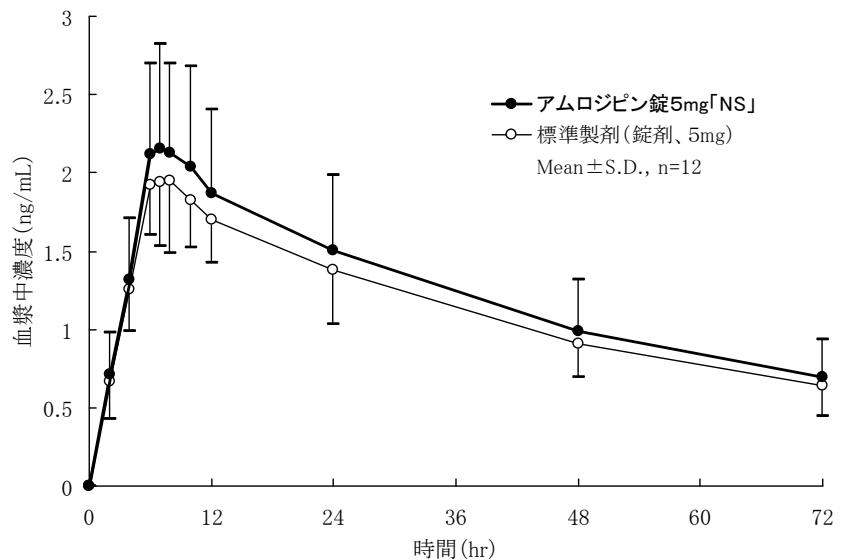


血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

アムロジピン錠 5mg「NS」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（アムロジピンとして 5mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アムロジピン錠 5mg「NS」	88.88±27.16	2.28±0.62	7.5±1.6	43.8±8.0
標準製剤 (錠剤、5mg)	81.34±16.82	2.12±0.37	7.5±1.7	45.7±13.8

(Mean±S.D., n=12)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

**【アムロジピン錠 10mg「NS」】**

アムロジピン錠 10mg「NS」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン：平成 12 年 2 月 14 日付医薬審第 64 号（一部改正：平成 13 年 5 月 31 日付医薬審発第 786 号、平成 18 年 11 月 24 日付薬食審査発第 1124004 号）」に基づき、アムロジピン錠 5mg「NS」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

**【アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」、アムロジピンOD錠 5mg「NS」】**

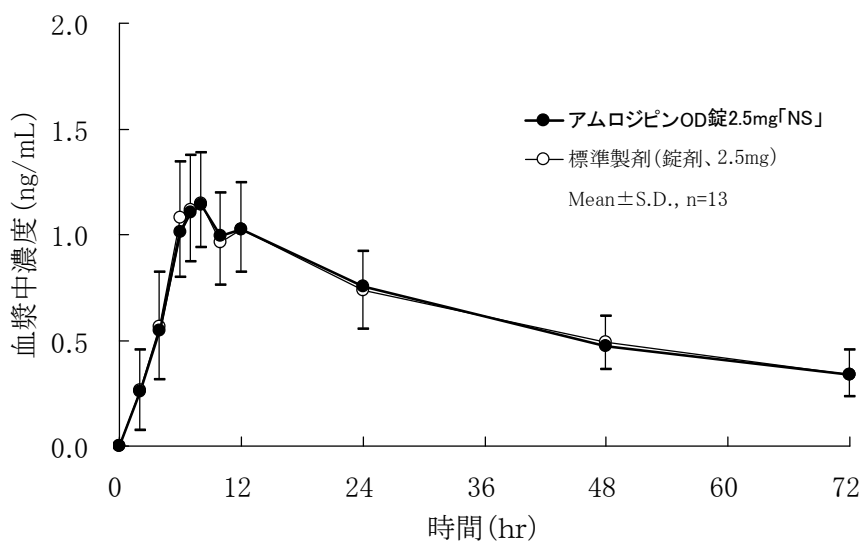
後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬審第487号（一部改正：平成13年5月31日付医薬審発第786号、平成18年11月24日付薬食審査発第1124004号）

アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（アムロジピンとして 2.5mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与（水なしで服用及び水で服用）して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両製剤の生物学的同等性が確認された。

**(1) 水なしで服用**

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」	44.03±8.42	1.18±0.22	8.1±1.8	41.5±11.3
標準製剤 (錠剤、2.5mg)	44.30±10.28	1.20±0.25	8.0±2.0	42.2±8.9

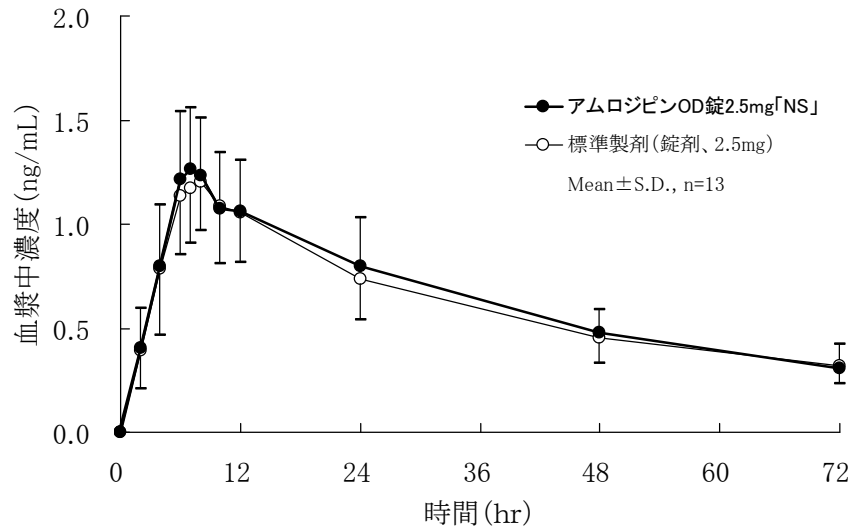
(Mean±S.D., n=13)



(2) 水で服用

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」	46.42 ± 11.04	1.31 ± 0.29	6.9 ± 0.9	36.7 ± 8.6
標準製剤 (錠剤、2.5mg)	44.57 ± 11.05	1.27 ± 0.26	7.8 ± 1.7	38.6 ± 8.1

(Mean ± S. D., n=13)



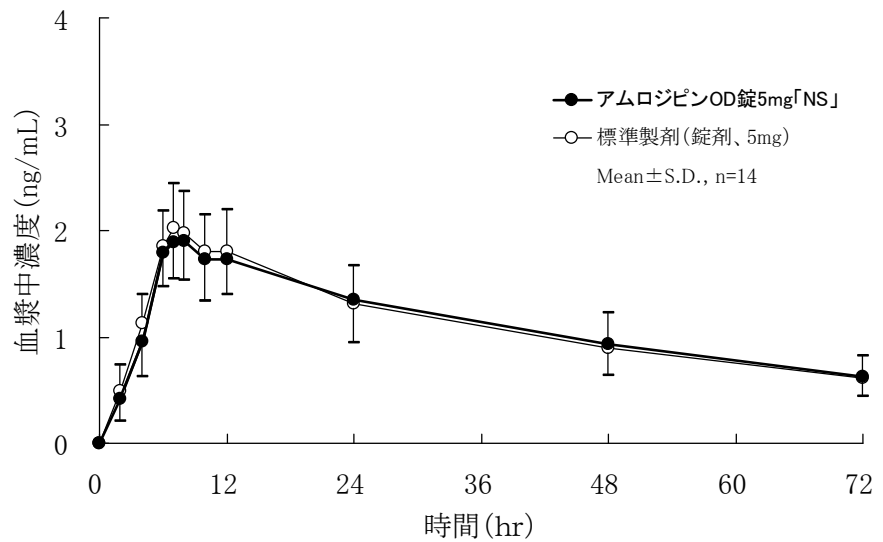
血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

アムロジピンOD錠5mg「NS」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（アムロジピンとして5mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与（水なしで服用及び水で服用）して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)～log(1.25)の範囲内であり、両製剤の生物学的同等性が確認された。

(1) 水なしで服用

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アムロジピンOD錠 5mg「NS」	79.96 ± 18.20	1.98 ± 0.34	7.4 ± 1.1	44.3 ± 9.7
標準製剤 (錠剤、5mg)	79.66 ± 18.50	2.10 ± 0.39	7.2 ± 0.7	43.8 ± 14.6

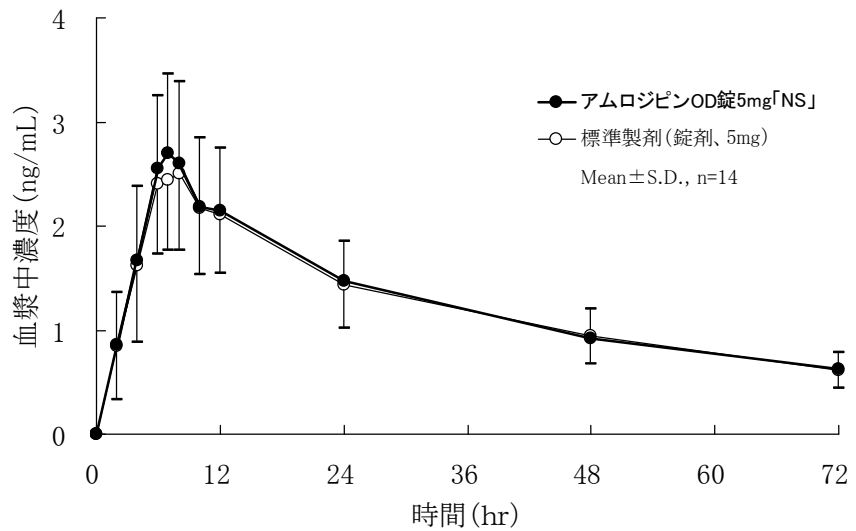
(Mean ± S. D., n=14)



(2) 水で服用

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-72</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アムロジピンOD錠 5mg「NS」	91.05 ± 23.95	2.74 ± 0.76	7.3 ± 0.6	40.5 ± 10.6
標準製剤 (錠剤、5mg)	89.79 ± 25.33	2.58 ± 0.67	7.3 ± 0.8	40.5 ± 8.3

(Mean ± S. D. , n=14)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

該当資料なし

「Ⅷ. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 7. 相互作用」を参照

該当資料なし

- (4) 中毒域
- (5) 食事・併用薬の影響
- (6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

<p>2. 薬物速度論的パラメータ</p> <p>(1) コンパートメントモデル</p> <p>(2) 吸収速度定数</p> <p>(3) バイオアベイラビリティ</p> <p>(4) 消失速度定数</p> <p>(5) クリアランス</p> <p>(6) 分布容積</p> <p>(7) 血漿蛋白結合率<sup>4)</sup></p>	<p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>「Ⅶ. 薬物動態に関する項目 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」を参照</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>97.1%</p>
<p>3. 吸収</p>	<p>消化管</p>
<p>4. 分布</p> <p>(1) 血液－脳関門通過性</p> <p>(2) 血液－胎盤関門通過性</p> <p>(3) 乳汁への移行性</p> <p>(4) 髄液への移行性</p> <p>(5) その他の組織への移行性</p>	<p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与（2）」を参照</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>
<p>5. 代謝</p> <p>(1) 代謝部位及び代謝経路</p> <p>(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種</p> <p>(3) 初回通過効果の有無及びその割合</p> <p>(4) 代謝物の活性の有無及び比率</p> <p>(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ</p>	<p>主として肝臓</p> <p>CYP3A4</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>
<p>6. 排泄</p> <p>(1) 排泄部位及び経路</p> <p>(2) 排泄率</p> <p>(3) 排泄速度</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>7. 透析等による除去率</p>	<p>「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 13. 過量投与」を参照</p>



## VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	該当記載事項なし									
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p><b>次の患者には投与しないこと</b></p> <p>1. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）</p> <p>2. ジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者</p> </div>									
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	「V. 治療に関する項目」を参照すること。									
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	「V. 治療に関する項目」を参照すること。									
5. 慎重投与内容とその理由	<p><b>次の患者には慎重に投与すること</b></p> <p>(1) 過度に血圧の低い患者 [さらに血圧が低下するおそれがある。]</p> <p>(2) 肝機能障害のある患者 [本剤は主に肝で代謝されるため、肝機能障害患者では、血中濃度半減期の延長及び血中濃度－時間曲線下面積（AUC）が増大することがある。高用量（10mg）において副作用の発現率が高まる可能性があるため、増量時には慎重に投与すること。]</p> <p>(3) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）</p> <p>(4) 重篤な腎機能障害のある患者 [一般的に腎機能障害のある患者では、降圧に伴い腎機能が低下することがある。]</p>									
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	<p>(1) 降圧作用に基づくめまい等があらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。</p> <p>(2) 本剤は血中濃度半減期が長く投与中止後も緩徐な降圧効果が認められるので、本剤投与中止後に他の降圧剤を使用するときは、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。</p>									
<p>7. 相互作用</p> <p>(1) 併用禁忌とその理由</p> <p>(2) 併用注意とその理由</p>	<p>本剤の代謝には主として薬物代謝酵素CYP3A4が関与していると考えられている。</p> <p>該当記載事項なし</p> <p><b>併用に注意すること</b></p> <table border="1" data-bbox="491 1529 1425 1980"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>降圧作用を有する薬剤</td> <td>相互に作用を増強するおそれがある。慎重に観察を行うなど注意して使用すること。</td> <td>相互に作用を増強するおそれがある。</td> </tr> <tr> <td>CYP3A4 阻害剤 エリスロマイシン ジルチアゼム リトナビル イトラコナゾール等</td> <td>エリスロマイシン及びジルチアゼムとの併用により、本剤の血中濃度が上昇したとの報告がある。</td> <td>本剤の代謝が競合的に阻害される可能性が考えられる。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	降圧作用を有する薬剤	相互に作用を増強するおそれがある。慎重に観察を行うなど注意して使用すること。	相互に作用を増強するおそれがある。	CYP3A4 阻害剤 エリスロマイシン ジルチアゼム リトナビル イトラコナゾール等	エリスロマイシン及びジルチアゼムとの併用により、本剤の血中濃度が上昇したとの報告がある。	本剤の代謝が競合的に阻害される可能性が考えられる。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子								
降圧作用を有する薬剤	相互に作用を増強するおそれがある。慎重に観察を行うなど注意して使用すること。	相互に作用を増強するおそれがある。								
CYP3A4 阻害剤 エリスロマイシン ジルチアゼム リトナビル イトラコナゾール等	エリスロマイシン及びジルチアゼムとの併用により、本剤の血中濃度が上昇したとの報告がある。	本剤の代謝が競合的に阻害される可能性が考えられる。								

	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 190 758 235">薬剤名等</th> <th data-bbox="758 190 1099 235">臨床症状・措置方法</th> <th data-bbox="1099 190 1423 235">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 235 758 347">CYP3A4 誘導剤 リファンピシン 等</td> <td data-bbox="758 235 1099 347">本剤の血中濃度が低下するおそれがある。</td> <td data-bbox="1099 235 1423 347">本剤の代謝が促進される可能性が考えられる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 347 758 526">グレープフルーツ ジュース</td> <td data-bbox="758 347 1099 526">本剤の降圧作用が増強されるおそれがある。同時服用をしないように注意すること。</td> <td data-bbox="1099 347 1423 526">グレープフルーツに含まれる成分が本剤の代謝を阻害し、本剤の血中濃度が上昇する可能性が考えられる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 526 758 705">シンバスタチン</td> <td data-bbox="758 526 1099 705">シンバスタチン 80mg（国内未承認の高用量）との併用により、シンバスタチンの AUC が 77% 上昇したとの報告がある。</td> <td data-bbox="1099 526 1423 705">機序不明</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	CYP3A4 誘導剤 リファンピシン 等	本剤の血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の代謝が促進される可能性が考えられる。	グレープフルーツ ジュース	本剤の降圧作用が増強されるおそれがある。同時服用をしないように注意すること。	グレープフルーツに含まれる成分が本剤の代謝を阻害し、本剤の血中濃度が上昇する可能性が考えられる。	シンバスタチン	シンバスタチン 80mg（国内未承認の高用量）との併用により、シンバスタチンの AUC が 77% 上昇したとの報告がある。	機序不明						
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
CYP3A4 誘導剤 リファンピシン 等	本剤の血中濃度が低下するおそれがある。	本剤の代謝が促進される可能性が考えられる。																	
グレープフルーツ ジュース	本剤の降圧作用が増強されるおそれがある。同時服用をしないように注意すること。	グレープフルーツに含まれる成分が本剤の代謝を阻害し、本剤の血中濃度が上昇する可能性が考えられる。																	
シンバスタチン	シンバスタチン 80mg（国内未承認の高用量）との併用により、シンバスタチンの AUC が 77% 上昇したとの報告がある。	機序不明																	
<p><b>8. 副作用</b></p> <p>(1) 副作用の概要</p> <p>(2) 重大な副作用と初期症状</p> <p>(3) その他の副作用</p>	<p>本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(頻度不明)</p> <p>(1) <b>肝機能障害、黄疸</b>：AST (GOT)、ALT (GPT)、<math>\gamma</math>-GTP の上昇等を伴う肝機能障害や黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(2) <b>血小板減少、白血球減少</b>：血小板減少又は白血球減少があらわれることがあるので、検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(3) <b>房室ブロック</b>：房室ブロック（初期症状：徐脈、めまい等）があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>次のような副作用が認められた場合には、必要に応じ、減量、投与中止等の適切な処置を行うこと。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 1332 687 1377"></th> <th data-bbox="687 1332 1423 1377">頻 度 不 明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 1377 687 1467"><b>肝 臓</b></td> <td data-bbox="687 1377 1423 1467">ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、肝機能障害、Al-P 上昇、LDH 上昇、<math>\gamma</math>-GTP 上昇、黄疸、腹水</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1467 687 1579"><b>循環器</b></td> <td data-bbox="687 1467 1423 1579">浮腫<sup>注1)</sup>、ほてり（熱感、顔面潮紅等）、動悸、血圧低下、胸痛、期外収縮、洞房又は房室ブロック、洞停止、心房細動、失神、徐脈</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1579 687 1668"><b>精神・神経系</b></td> <td data-bbox="687 1579 1423 1668">眩暈・ふらつき、頭痛・頭重、眠気、振戦、末梢神経障害、気分動揺、不眠</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1668 687 1758"><b>消化器</b></td> <td data-bbox="687 1668 1423 1758">心窩部痛、便秘、嘔気・嘔吐、口渇、消化不良、下痢・軟便、排便回数増加、口内炎、腹部膨満、胃腸炎、膵炎</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1758 687 1803"><b>筋・骨格系</b></td> <td data-bbox="687 1758 1423 1803">筋緊張亢進、筋痙攣、背痛、関節痛、筋肉痛</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1803 687 1892"><b>泌尿・生殖器</b></td> <td data-bbox="687 1803 1423 1892">BUN 上昇、クレアチニン上昇、頻尿・夜間頻尿、尿管結石、尿潜血陽性、尿中蛋白陽性、勃起障害、排尿障害</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1892 687 1982"><b>代謝異常</b></td> <td data-bbox="687 1892 1423 1982">血清コレステロール上昇、CK (CPK) 上昇、高血糖、糖尿病、尿中ブドウ糖陽性</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1982 687 2049"><b>血 液</b></td> <td data-bbox="687 1982 1423 2049">赤血球減少、ヘモグロビン減少、白血球減少、白血球増加、紫斑、血小板減少</td> </tr> </tbody> </table>		頻 度 不 明	<b>肝 臓</b>	ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、肝機能障害、Al-P 上昇、LDH 上昇、 $\gamma$ -GTP 上昇、黄疸、腹水	<b>循環器</b>	浮腫 <sup>注1)</sup> 、ほてり（熱感、顔面潮紅等）、動悸、血圧低下、胸痛、期外収縮、洞房又は房室ブロック、洞停止、心房細動、失神、徐脈	<b>精神・神経系</b>	眩暈・ふらつき、頭痛・頭重、眠気、振戦、末梢神経障害、気分動揺、不眠	<b>消化器</b>	心窩部痛、便秘、嘔気・嘔吐、口渇、消化不良、下痢・軟便、排便回数増加、口内炎、腹部膨満、胃腸炎、膵炎	<b>筋・骨格系</b>	筋緊張亢進、筋痙攣、背痛、関節痛、筋肉痛	<b>泌尿・生殖器</b>	BUN 上昇、クレアチニン上昇、頻尿・夜間頻尿、尿管結石、尿潜血陽性、尿中蛋白陽性、勃起障害、排尿障害	<b>代謝異常</b>	血清コレステロール上昇、CK (CPK) 上昇、高血糖、糖尿病、尿中ブドウ糖陽性	<b>血 液</b>	赤血球減少、ヘモグロビン減少、白血球減少、白血球増加、紫斑、血小板減少
	頻 度 不 明																		
<b>肝 臓</b>	ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、肝機能障害、Al-P 上昇、LDH 上昇、 $\gamma$ -GTP 上昇、黄疸、腹水																		
<b>循環器</b>	浮腫 <sup>注1)</sup> 、ほてり（熱感、顔面潮紅等）、動悸、血圧低下、胸痛、期外収縮、洞房又は房室ブロック、洞停止、心房細動、失神、徐脈																		
<b>精神・神経系</b>	眩暈・ふらつき、頭痛・頭重、眠気、振戦、末梢神経障害、気分動揺、不眠																		
<b>消化器</b>	心窩部痛、便秘、嘔気・嘔吐、口渇、消化不良、下痢・軟便、排便回数増加、口内炎、腹部膨満、胃腸炎、膵炎																		
<b>筋・骨格系</b>	筋緊張亢進、筋痙攣、背痛、関節痛、筋肉痛																		
<b>泌尿・生殖器</b>	BUN 上昇、クレアチニン上昇、頻尿・夜間頻尿、尿管結石、尿潜血陽性、尿中蛋白陽性、勃起障害、排尿障害																		
<b>代謝異常</b>	血清コレステロール上昇、CK (CPK) 上昇、高血糖、糖尿病、尿中ブドウ糖陽性																		
<b>血 液</b>	赤血球減少、ヘモグロビン減少、白血球減少、白血球増加、紫斑、血小板減少																		

		<b>頻 度 不 明</b>
	<b>過敏症</b> <sup>注2)</sup>	発疹、掻痒、蕁麻疹、光線過敏症、多形紅斑、血管炎、血管浮腫
	<b>口 腔</b> <sup>注2)</sup>	(連用により) 歯肉肥厚
	<b>その他</b>	全身倦怠感、しびれ、脱力感、耳鳴、鼻出血、味覚異常、疲労、咳、発熱、視力異常、呼吸困難、異常感覚、多汗、血中カリウム減少、女性化乳房、脱毛、鼻炎、体重増加、体重減少、疼痛、皮膚変色
	注1) 10mg への増量により高頻度に認められたとの報告がある。 注2) 発現した場合には投与を中止すること。	
(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧	該当資料なし	
(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度	該当資料なし	
(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法	ジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。	
9. 高齢者への投与	高齢者では一般に過度の降圧は好ましくないとされていること及び高齢者での体内動態試験で血中濃度が高く、血中濃度半減期が長くなる傾向が認められているので、低用量 (2.5mg/日) から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。	
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。[動物実験で妊娠末期に投与すると妊娠期間及び分娩時間が延長することが認められている。] (2) 授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は、授乳を避けさせること。[動物実験で母乳中へ移行することが認められている。]	
11. 小児等への投与	低出生体重児、新生児、乳児又は6歳未満の幼児に対する安全性は確立していない (使用経験が少ない)。	
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	該当記載事項なし	
13. 過量投与	<b>症状</b> ：過度の末梢血管拡張により、ショックを含む著しい血圧低下と反射性頻脈を起こすことがある。 <b>処置</b> ：心・呼吸機能のモニターを行い、頻回に血圧を測定する。著しい血圧低下が認められた場合は、四肢の挙上、輸液の投与等、心血管系に対する処置を行う。症状が改善しない場合は、循環血液量及び排尿量に注意しながら昇圧剤の投与を考慮する。本剤は蛋白結合率が高いため、透析による除去は有効ではない。 また、本剤服用直後に活性炭を投与した場合、本剤の AUC は 99%減少し、服用 2 時間後では 49%減少したことから、本剤過量投与時の吸収抑制処置として活性炭投与が有効であると報告されている。	

14. 適用上の注意	<p><b>【錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg】</b></p> <p>(1) 分割後：分割後は早めに使用すること。分割後に使用する場合には、遮光の上 30 日以内に使用すること。</p> <p>(2) 薬剤交付時：P T P 包装の薬剤は P T P シートから取り出して服用するよう指導すること（P T P シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）。</p> <p><b>【O D 錠 2.5mg、O D 錠 5mg】</b></p> <p>(1) 分割後：分割後は早めに使用すること。分割後やむを得ず保存する場合には、湿気、光を避けて保存すること。</p> <p>(2) 薬剤交付時：</p> <p>1) P T P 包装の薬剤は P T P シートから取り出して服用するよう指導すること（P T P シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）。</p> <p>2) 本剤を P T P シートから取り出して保存する場合は、湿気、光を避けて保存するよう指導すること。</p> <p>(3) 服用時：本剤は舌の上のせ唾液を湿潤させ、唾液のみで服用可能である。また、水で服用することもできる。</p>
15. その他の注意	因果関係は明らかでないが、本剤による治療中に心筋梗塞や不整脈（心室性頻拍を含む）がみられたとの報告がある。
16. その他	該当しない

## Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

<p>1. 薬理試験</p> <p>(1) 薬効薬理試 （「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照）</p> <p>(2) 副次的薬理試験</p> <p>(3) 安全性薬理試験</p> <p>(4) その他の薬理試験</p>	該当資料なし
<p>2. 毒性試験</p> <p>(1) 単回投与毒性試験</p> <p>(2) 反復投与毒性試験</p> <p>(3) 生殖発生毒性試験</p> <p>(4) その他の特殊毒性</p>	該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	製 剤：劇薬、処方せん医薬品（注意－医師等の処方せんにより使用すること） 有効成分：毒薬
2. 有効期間又は使用期限	使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）
3. 貯法・保存条件	錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg : 室温保存 OD錠 2.5mg、OD錠 5mg : 気密容器、室温保存
4. 薬剤取扱い上の注意点 (1) 薬局での取り扱いについて  (2) 薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）	<p><b>保管方法【錠 2.5mg、錠 5mg、錠 10mg】</b>  (1) 使用期限内であっても、開封後はなるべく速やかに使用すること。  (2) アムロジピン錠 10mg「NS」は、アルミピロー開封後、湿気を避けて保存すること。</p> <p><b>保管方法【OD錠 2.5mg、OD錠 5mg】</b>  (1) 使用期限内であっても、アルミピロー開封後はなるべく速やかに使用すること。  (2) 本剤は吸湿性が強いので、アルミピロー開封後は湿気を避けて保存し、服用直前までPTPシートから取り出さないこと（一包化調剤は避けること）。なお、やむを得ずPTPシートから取り出して保存する場合は、湿気、光を避けて保存すること。</p> <p>「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法(1)、14. 適用上の注意」を参照</p>
5. 承認条件等	該当しない
6. 包装	<p><b>アムロジピン錠 2.5mg「NS」</b>  PTP包装：100錠、140錠(14錠×10)、500錠、700錠(14錠×50)  バラ包装：500錠</p> <p><b>アムロジピン錠 5mg「NS」</b>  PTP包装：100錠、140錠(14錠×10)、700錠(14錠×50)、1000錠  バラ包装：500錠</p> <p><b>アムロジピン錠 10mg「NS」</b>  PTP包装：100錠  バラ包装：500錠</p> <p><b>アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」</b>  PTP包装：100錠、140錠(14錠×10)、1000錠</p> <p><b>アムロジピンOD錠 5mg「NS」</b>  PTP包装：100錠 140錠(14錠×10)、1000錠</p>
7. 容器の材質	<p><b>アムロジピン錠 2.5mg「NS」、アムロジピン錠 5mg「NS」</b>  【PTP製品】 PTP包装：ポリ塩化ビニル、アルミニウム  化粧箱：紙</p> <p><b>【バラ製品】</b> 容 器：ポリエチレン  キャップ：ポリプロピレン  化粧箱：紙</p>

	<p><b>アムロジピン錠 10mg 「NS」</b>  <b>【PTP製品】</b> PTP包装：ポリ塩化ビニル、アルミニウム  ピロー包装：ポリエチレンラミネートアルミニウム  化粧箱：紙</p> <p><b>【バラ製品】</b> 容器：ポリエチレン  キャップ：ポリプロピレン  化粧箱：紙</p> <p><b>アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」、アムロジピンOD錠 5mg 「NS」</b>  PTP包装：ポリ塩化ビニル、アルミニウム  ピロー包装：ポリエチレンラミネートアルミニウム  化粧箱：紙</p>																		
<p><b>8. 同一成分・同効薬</b></p>	<p>同一成分薬：  アムロジン錠 2.5mg・5mg・10mg、アムロジンOD錠 2.5mg・5mg・10mg  (大日本住友)</p> <p>ノルバスク錠 2.5mg・5mg・10mg、ノルバスクOD錠 2.5mg・5mg・10mg  (ファイザー)</p> <p>同効薬：  ジルチアゼム塩酸塩、ニカルジピン塩酸塩、ニソルジピン、ニトレンジピン、ニフェジピン、ベニジピン塩酸塩、マニジピン塩酸塩等</p>																		
<p><b>9. 国際誕生年月日</b></p>	<p>不明</p>																		
<p><b>10. 製造販売承認年月日 及び承認番号</b></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>製造販売承認年月日</th> <th>承認番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アムロジピン錠 2.5mg 「NS」</td> <td>2008年3月14日</td> <td>22000AMX01110000</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン錠 5mg 「NS」</td> <td>2008年3月14日</td> <td>22000AMX01111000</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン錠 10mg 「NS」</td> <td>2012年8月15日</td> <td>22400AMX00994000</td> </tr> <tr> <td>アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」</td> <td>2009年7月13日</td> <td>22100AMX02035000</td> </tr> <tr> <td>アムロジピンOD錠 5mg 「NS」</td> <td>2009年7月13日</td> <td>22100AMX02034000</td> </tr> </tbody> </table>		製造販売承認年月日	承認番号	アムロジピン錠 2.5mg 「NS」	2008年3月14日	22000AMX01110000	アムロジピン錠 5mg 「NS」	2008年3月14日	22000AMX01111000	アムロジピン錠 10mg 「NS」	2012年8月15日	22400AMX00994000	アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」	2009年7月13日	22100AMX02035000	アムロジピンOD錠 5mg 「NS」	2009年7月13日	22100AMX02034000
	製造販売承認年月日	承認番号																	
アムロジピン錠 2.5mg 「NS」	2008年3月14日	22000AMX01110000																	
アムロジピン錠 5mg 「NS」	2008年3月14日	22000AMX01111000																	
アムロジピン錠 10mg 「NS」	2012年8月15日	22400AMX00994000																	
アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」	2009年7月13日	22100AMX02035000																	
アムロジピンOD錠 5mg 「NS」	2009年7月13日	22100AMX02034000																	
<p><b>11. 薬価基準収載年月日</b></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬価基準収載年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アムロジピン錠 2.5mg 「NS」</td> <td>2008年7月4日</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン錠 5mg 「NS」</td> <td>2008年7月4日</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン錠 10mg 「NS」</td> <td>2012年12月14日</td> </tr> <tr> <td>アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」</td> <td>2009年11月13日</td> </tr> <tr> <td>アムロジピンOD錠 5mg 「NS」</td> <td>2009年11月13日</td> </tr> </tbody> </table>		薬価基準収載年月日	アムロジピン錠 2.5mg 「NS」	2008年7月4日	アムロジピン錠 5mg 「NS」	2008年7月4日	アムロジピン錠 10mg 「NS」	2012年12月14日	アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」	2009年11月13日	アムロジピンOD錠 5mg 「NS」	2009年11月13日						
	薬価基準収載年月日																		
アムロジピン錠 2.5mg 「NS」	2008年7月4日																		
アムロジピン錠 5mg 「NS」	2008年7月4日																		
アムロジピン錠 10mg 「NS」	2012年12月14日																		
アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」	2009年11月13日																		
アムロジピンOD錠 5mg 「NS」	2009年11月13日																		

<p>12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容</p>	<p>アムロジピン錠 2.5mg「NS」、アムロジピン錠 5mg「NS」  2009年10月19日付 「用法・用量」の変更  高血圧症に対し「効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。」を追加</p> <p>2012年8月23日付 「用法・用量」の変更  高血圧症における小児の用法・用量を追加</p> <p>アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」、アムロジピンOD錠 5mg「NS」  2010年1月5日付 「用法・用量」の変更  高血圧症に対し「効果不十分な場合には1日1回10mgまで増量することができる。」を追加</p> <p>2012年8月23日付 「用法・用量」の変更  高血圧症における小児の用法・用量を追加</p>																								
<p>13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容</p>	<p>該当しない</p>																								
<p>14. 再審査期間</p>	<p>該当しない</p>																								
<p>15. 投薬期間制限医薬品に関する情報</p>	<p>本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。</p>																								
<p>16. 各種コード</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>販売名</th> <th>HOT 番号 (9桁)</th> <th>厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード</th> <th>レセプト 電算コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アムロジピン錠 2.5mg「NS」</td> <td>118322101</td> <td>2171022F1134</td> <td>620007826</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン錠 5mg「NS」</td> <td>118323801</td> <td>2171022F2130</td> <td>620007860</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン錠 10mg「NS」</td> <td>121981401</td> <td>2171022F5113</td> <td>622198101</td> </tr> <tr> <td>アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」</td> <td>119373201</td> <td>2171022F3080</td> <td>621937301</td> </tr> <tr> <td>アムロジピンOD錠 5mg「NS」</td> <td>119374901</td> <td>2171022F4087</td> <td>621937401</td> </tr> </tbody> </table>	販売名	HOT 番号 (9桁)	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	アムロジピン錠 2.5mg「NS」	118322101	2171022F1134	620007826	アムロジピン錠 5mg「NS」	118323801	2171022F2130	620007860	アムロジピン錠 10mg「NS」	121981401	2171022F5113	622198101	アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」	119373201	2171022F3080	621937301	アムロジピンOD錠 5mg「NS」	119374901	2171022F4087	621937401
販売名	HOT 番号 (9桁)	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード																						
アムロジピン錠 2.5mg「NS」	118322101	2171022F1134	620007826																						
アムロジピン錠 5mg「NS」	118323801	2171022F2130	620007860																						
アムロジピン錠 10mg「NS」	121981401	2171022F5113	622198101																						
アムロジピンOD錠 2.5mg「NS」	119373201	2171022F3080	621937301																						
アムロジピンOD錠 5mg「NS」	119374901	2171022F4087	621937401																						
<p>17. 保険給付上の注意</p>	<p>本剤は保険診療上の後発医薬品である。</p>																								

## XI. 文献

1. 引用文献	1) 日新製薬株式会社 社内資料 (安定性) 2) 日新製薬株式会社 社内資料 (無包装安定性) 3) 日新製薬株式会社 社内資料 (生物学的同等性) 4) 第十六改正日本薬局方解説書
2. その他の参考文献	該当資料なし

## XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況	該当資料なし
2. 海外における臨床支援情報	該当資料なし

## XIII. 備考

その他の関連資料	JANコード <b>アムロジピン錠 2.5mg 「NS」</b> (100錠PTP) : 4987447534014 (140錠PTP) : 4987447534007 (500錠PTP) : 4987447534021 (700錠PTP) : 4987447534045 (500錠バラ) : 4987447534052  <b>アムロジピン錠 5mg 「NS」</b> (100錠PTP) : 4987447535011 (140錠PTP) : 4987447535004 (700錠PTP) : 4987447535042 (1000錠PTP) : 4987447535035 (500錠バラ) : 4987447535059  <b>アムロジピン錠 10mg 「NS」</b> (100錠PTP) : 4987447570012 (500錠バラ) : 4987447570050  <b>アムロジピンOD錠 2.5mg 「NS」</b> (100錠PTP) : 4987447541012 (140錠PTP) : 4987447541005 (1000錠PTP) : 4987447541036  <b>アムロジピンOD錠 5mg 「NS」</b> (100錠PTP) : 4987447542019 (140錠PTP) : 4987447542002 (1000錠PTP) : 4987447542033
----------	--